



兵庫県立
芸術文化センター

文楽 in Hyogo

(豊竹呂太夫改め)
十一代目豊竹若太夫襲名披露公演

へいけによごのしま 平家女護島

鬼界が島の段

絶海の孤島にひとり残り、
「互ひに未来で、未来で」と舟を見送る、
俊寛僧都の悲哀。
近松門左衛門、時代物の傑作に
若太夫が挑む！



第1部

トーク『若太夫襲名によせて』

第2部

文楽『平家女護島 鬼界が島の段』

写真 滝澤めぐみ

2024 6/29 (土)

2:00pm 開演 (1:30pm 開場)

A席 3,500円 B席 2,500円 (全席指定 / 税込)

兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札口ログ/JR西宮駅より徒歩15分 (阪急バス7分)

一般発売

3/17 (日)

チケット予約

芸術文化センター会員先行予約受付開始 3/16 (土) 窓口での販売 (残席がある場合) 3/19 (火)

ご予約・お問い合わせ 芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255 [10:00am~5:00pm 月曜休※祝日の場合は翌日]

<https://www.gcenter-hyogo.jp>

●イープラス <https://eplus.jp> ●チケットぴあ <https://pia.jp/t/> ●ローソンチケット <https://l-tike.com>

※未就学児のご入場はご遠慮ください。 ※やむを得ない事情により、出演者等が変更となる場合があります。 ※B席(2階席)は、文楽の構造上、船底が見える可能性があります。あらかじめご了承ください。 ※プレイガイドのお取り扱いについては各プレイガイドにお問い合わせください。

主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター 企画：河内厚郎(兵庫県立芸術文化センター特別参与) 制作：河内厚郎事務所 協力：関西舞台株式会社

文楽 in Hyogo

(豊竹呂太夫改め) 十一代目豊竹若太夫襲名披露公演

西宮北口にあった日芸会館という劇場で、昭和26年1月、十世豊竹若太夫の襲名披露がおこなわれています。豊竹若太夫といえば竹本義太夫(義太夫節浄瑠璃の創始者)に比肩する大名跡ですが、十世若太夫は失明してからは床本を用いず無本で語り、人間国宝となりました。その孫で、名人・四代目竹本越路太夫の薫陶を受けた豊竹呂太夫が、このたび豊竹若太夫の十一代目を襲名します。

作者の氏神といわれる近松門左衛門の没後三百年に当たる今年、新・若太夫が、近松の名作『平家女護島』の「俊寛」を語ります。兵庫県立芸術文化センター開館20周年(2025年)のイベントに相応しく、兵庫県立芸術文化センターでは初めてとなる襲名披露公演です。

兵庫県立芸術文化センター 特別参与 河内厚郎

【第一部】 トーク「若太夫襲名によせて」 児玉竜一 × 河内厚郎 聞き手 岩城則子



児玉竜一

(早稲田大学教授・早稲田大学演劇博物館館長)

兵庫県西宮市生まれ。甲陽学院卒。東京国立文化財研究所芸能部研究員、日本女子大学准教授などを経て、早稲田大学教授。早稲田大学演劇博物館館長として、展示等にも携わる。専門は、日本古典演劇研究と批評。朝日新聞で2005年から歌舞伎評を担当。共編著に『カブキ・ハンドブック』(1993・新書館)、図録『よみがえる帝国劇場展』(2002・早稲田大学演劇博物館)、『能楽・文楽・歌舞伎』(2002・教育芸術社)、『映画のなかの古典芸能』(2010・森話社)、『最新歌舞伎大事典』(2012・柏書房)など。国立劇場の、歌舞伎・文楽・歌舞伎本研修制度の講師も勤める。



河内厚郎

(兵庫県立芸術文化センター 特別参与)

西宮市生まれ。甲陽学院卒。一橋大学卒。舞台芸術学院(夜間)卒。演劇評論家として執筆業に入り、「関西文学」編集長をつとめる。兵庫県立芸術文化センター 特別参与。阪急文化財団理事。はびきの市民大学学長。著書に『淀川ものがたり』『わたしの風姿花伝』、編著に『手塚治虫のふるさと・宝塚』、多田道太郎・毎日新聞との共著『阪神観「間」の文化快楽』、『興行とパトロン』(神山彰・編)、NHKブックス『都市のたくらみ・都市の愉しみ 文化装置を考える』(編著 サントリー 不易流行研究所)、桂米朝・藤本義一・大野晋らとの対談集『関西弁探検』、有栖川有栖との対談集『大阪探偵団』など。第14回読売賞。平成3年度咲くやこの花賞。近著の論文に「水と芸能とヒルコ」(西宮神社:「えびす懸賞論文」最優秀論文賞)。

【第二部】 文楽『平家女護島 鬼界が島の段』

出演 人形浄瑠璃文楽座

義太夫 豊竹呂太夫 (4月より豊竹若太夫)

三味線 鶴澤清介

人形 吉田和生 ほか



(義太夫)
豊竹呂太夫



(三味線)
鶴澤清介



(人形)
吉田和生

【あらすじ】

平家転覆を企てた罪で流刑となった、俊寛僧都、平判官康頼、丹波少将成経は、南海の孤島、鬼界が島で失意のまま過ごしていた。ある日、大きな船がやってきて、都からの使い妹尾太郎兼康が、恩赦を告げる。清盛の娘、徳子中宮が懐妊し、安産祈願の大赦が行われたのである。喜び合う三人だったが、赦免状に記された名は康頼と成経のみ、俊寛の名前はない。喜びの後の暗転に俊寛が泣き叫ぶところへ丹左衛門尉基康が降りてきて、俊寛にも赦免状が降りたことを伝える。

三人に続き、成経と結ばれた海女の千鳥が船に乗ろうとすると、四人は乗せられないと妹尾は告げ、さらに俊寛の妻、東屋が平清盛の命で殺されてしまったことを告げた。絶望した俊寛は……



<https://www.gcenter-hyogo.jp>

兵庫県立芸術文化センター
Hyogo Performing Arts Center

先行予約会員へのご登録はこちら



便利なアクセス!!

大阪梅田からも神戸三宮からもホールまで15分
(阪急電車特急乗車の場合)

◎ 阪急 西宮北口駅 南改札口 スグ(連絡デッキで直結)

◎ JR 西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

※ご来場は、電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

アクセス

